

## 趣意書

乳児院なかべ学院 新院舎建設にかかるご寄付のお願い

社会福祉法人中部少年学院が経営する乳児院なかべ学院は、昭和26年に当法人初代理事長である故小野倉藏が、戦後の荒廃した社会状況の中で、住居を失い、或いは夫を失い路頭に迷う母子の様子を見かねて、乳児預り所を開設したことに始まりました。その後、昭和28年には、乳児院(定員15名)としての認可を受け、昭和42年に新院舎(定員35名)を建設すると同時に、県立宇部乳児院と合併し、以来県内一箇所の乳児院として家庭環境に恵まれない入所児の健やかな成長を願い、その養育に全力を尽くしてまいりました。昭和45年には、当時の社会現象の一つである都市への人口集中による家族形態の変化が、家庭での養育力の低下を招いたこと等の理由により、定員を48名に増やし、昭和52年に施設を増築し、今日に至っています。

しかし、年月の経過とともに建物の老朽化と、耐震化の不備のため入所児の安全・安心を確保することが困難となってきました。

また、現院舎は傾斜地に建てられた3階建てであり、敷地が狭隘なため国が求める少人数による家庭的な養育を実践する施設の建設が難しく、新たな敷地を求める必要が生じてまいりました。これらの状況を踏まえ、平成27年5月の当法人役員会において、乳児院新院舎建設委員会の立ち上げが承認され、平成30年度を目標に新院舎を新たに建設することとなり、これまで準備を進めてまいりました。そして、このたび、県や市ご当局のご協力をいただき、下関市古屋町に所在する山口県立山口南総合支援学校下関分校跡地(グラウンド部分)に移転新築することとなりました。

新院舎(定員30名)を建設する上で最大の課題は、建設資金と用地取得資金の確保です。建設資金については、国と県の補助制度がありますが、4分の1は法人の自己負担です。また、用地取得資金についての補助制度はなく、全額自己負担となります。これまで蓄えてきた自己資金では、まだまだ不足しているのが現状です。収益を目的としない社会福祉法人がこのような大きな事業を行うときは、どうしても多くの皆様のご支援に頼らざるを得ません。「この子らに笑顔を」すべての児童は等しくすこやかに成長する権利をもっています。そして、すべての児童が日本の未来を築き支えるかけがえのない存在です。乳児院で育つ子どもたちのために、安全で明るくより家庭的な生活環境を整えるこの事業に、何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成三十年十月吉日

社会福祉法人中部少年学院

理事長 石川 啓 常務理事 秋枝研二

理事 太刀山逸男 理事 濱崎 進

理事 咲賀信幸 理事 沖田哲義

理事 石崎幸亮 理事 竹川智子

各位